



生野中学校区 学校設置協議会準備会

ニュース

平成30年2月5日発行 第2号

子どもたちのためにできること



みんなで話し合っています

生野区では、教育環境の充実、子育て環境の充実、災害に強いまちづくりを通じて、まちの活性化をめざす「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進しており、議論のたたき台となる「生野中学校区学校整備計画(素案)」をもとに保護者・地域住民のみなさんと具体的な意見交換を進めています。

生野中学校区 学校設置協議会準備会(以下、「準備会」といいます)(第2回、平成30年1月24日(水))が開催されましたので、議論内容をご報告いたします。

第2回準備会で意見交換されたテーマ

- (1) 学校再編にかかる総論(考え方)について
- (2) 学校間交流について

(1) 学校再編にかかる総論(考え方)について

区からのご説明内容

- ✓ 「素案」は子どもたちにとってより良い教育環境づくりに向けて、保護者・地域のみなさんの意見交換を深めていくための骨子として作成している。今後、意見交換を重ねながら内容を肉付けし、学校整備計画(案)を策定していく。
- ✓ 生野中学校区の4小学校は、いずれの学校も一部の学年を除き、各学年1学級で推移していく見込み。
- ✓ 小規模校は、児童に目がとどきやすいというメリットがあるが、中規模校・大規模校でも、習熟度別・少人数制の授業等により、児童に目がとどくよう工夫をしている。小規模校のメリットを残しながら適正規模化をめざしていきたい。
- ✓ 小規模校では、たくさんの人と出会い、付き合い方を覚える機会が少なくなってしまう等のデメリットがある。また、いじめや低学年で人間関係が固定化した際の苦しさという面からも、クラス替えができるということは重要。
- ✓ 生野区を教育に強いまちにするという思いで、子どもたちの未来を生き抜く力を育てるために、教育内容やソフト面で目指すもの、特に力を入れていきたいものが「生野の教育」(2ページに掲載)の3つのキーワードとして取り組んでいく。



(1) 学校再編にかかる総論（考え方）について

「生野の教育」 3つのキーワード

今の課題解決の上に「次世代の学校」の3本柱を立てる

現状の課題解決



安心・安全な学校づくり

不登校・虐待・こどもの貧困などの課題に学校と行政、地域が連携する仕組みを構築



教員の指導力向上

教員が学びあうための環境整備・学校支援・研修・研究指定など

「生野の教育」 3つのキーワード

基礎学力を身につけ、
学び続けるための
自立（自律）学習

学んだことを
活用する

学ぶ意欲
目標を持つ



自分を知り、視野を
広げ目標を持つための
キャリア教育

課題を解決し、新たな
教育を実現するための
チーム学校

地域・外部講師
による支援

小中一貫で実施する
とより効果が高い

課外学習支援

学校・教員支援

いただいた主なご意見

- ★ 学年の児童数が40人を超えるかどうかのわずかな違いで、学級数が減り、教員1人あたりの児童数ひいては負担が大きく変わるという、このようなシステム自体に疑問を感じる。再編までの間で何かできることはないのか？

学校の再編後に教員の加配を行う国の制度があるが、これに加えて、教育委員会事務局としては再編前からの加配を行えるよう予算面も含めた検討を進めている。子どもの環境が激変しないような工夫も考え、再編前後においてどのような形の加配が可能か、学校整備計画（案）となった際に説明したい。

行政

(2) 学校間交流について

区からのご説明内容

○小学校間の交流

●目的：小規模校のデメリットの解消、小中連携の一環としての小小連携の推進

- ・行事の合同実施による交流（児童の交流）
4校の交流に加え、近隣校での交流も検討
学校負担に配慮し、既存の取組を中心に検討
例）英語の取組、鑑賞行事、出前授業、社会見学、校外学習等
- ・教員間の研修、交流も検討



○今後の予定

- ・生野中学校区5校の校長による定期的な連絡調整会議の実施し、
行事予定の調整や合同行事の検討、既存の取組に関する情報交換 等

- ✓ 前回、ひとつの小学校に集まっての合同授業が提案されたが、児童や教員の移動・登下校の安全確保等の負担という点で難しい面があり、行事での交流を検討したい。
- ✓ 新たな取組としては、平成30年度からの英語の教科化を見据えた連携が考えられる。
- ✓ 平成30年度は各校の行事予定はすでに決まりつつある時期であり、平成31年度の行事に向けた調整が中心になる。しかし、平成30年度についても、情報交換を行いつつ可能なものは実施する。



いただいた主なご意見

- ★ 平成30年度は可能なものから実施するとの説明だが、例えば、修学旅行の合同実施など大きな目標を決めて一気に進めなければ動かないのではないかと。

小規模校は、職員体制上、学校単位よりも学年単位の交流が考えやすい。安全面の確保が絶対条件だが、各学校の校長、教員と相談し進めたい。

行政

- ★ 交流の話は以前から出ていて、実施もされたが続いていない。何度も同じ話をするのは避けたい。何か斬新な取組を出し、進める姿勢を示してほしい。

今回の目的は小規模校のデメリットの解消という目的であるが、再編という将来の姿をめざし、できることは並行し、持続可能な方法を考える。

行政

- ★ 子どものために複数学級が必要と言うならば、行政がもっと思い切って早急に進めるべき。再編に7年もかかるなら、今の児童は卒業する。工期が必要なら、まずはどこか既存の学校に集まって、施設が整ってから移ってはどうか。

再編に向けた話し合いと、新校舎の設計を同時に進めることで、6年目での開校をめざせるよう検討し、手続きをしていきたい。思い切って早急に進めるとのご意見があったが、学校運営においては地域の力も必要となるので、より多くの賛同を得られる形としたい。

行政

- ★ 具体案がなければ、地域・保護者への説明が十分にできず、再編の実現が半信半疑になってしまう。「実際に〇〇をします」という情報を出してほしい。

平成31年度からの具体取組や、平成30年度に実施可能な交流の検討については、学校長と協議し、その進捗状況は随時準備会で報告をする。

行政

校長先生のご意見

- ◆ 学校間での連携はやっていけないといけない重要なもの。
小学校として今、大きな関心があるのは英語の取組。教員がすることが増え、カリキュラムの工面も必要となるなかで、学校同士で協力するなら今が手を打ちやすいタイミングではないかという話があり、まずはそこから取り組もうとなっている。
再編の有無に関わらず、同じ中学校に進学する子どもたちの交流は大切で、普段からの連携や交流にはメリットもあるので、学校間連携を進めていきたい。



- ◆ 「〇〇大会」や「合同運動会」といった大規模なものは運営の大変さもあり続かない。各校が取り組まなければならない英語の授業の一部を使って、年に1回程度で、英語の交流イベントをする等の規模の方が無理せずに続くのではないかな。



いただいた主なご意見

その他・確認事項など

- ★ 舍利寺小学校区は生野中学校区と大池中学校区に分かれているが、新小学校2校の開校時期がずれた場合、開校が遅れた方の地域の児童は現在以上に小規模の教育環境になる。開校時期がずれた場合はどうするか？

生野中学校区は施設整備の工事に相当の時間が見込まれるので、大池中学校区に先行して準備会を立ち上げた。今後、大池中学校区についても準備会を立ち上げ、両地域での新小学校の開校時期も見据えて進めていく。

行政

第2回での確認事項



- ✓ 「準備会」は、毎月第3水曜日(祝日の場合は翌木曜日)の19時より、生野区役所にて実施する。
- ✓ 次回のテーマは「新たな学校の児童・生徒数推移」、「新たな学校の校地」、「開校時期(開校までのスケジュール)」
- ✓ 次回のオブザーバーは、4小学校区それぞれ3名を定員とし計12名までとする。

学校再編に関する情報は生野区ホームページでもご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

生野中学校区

学校設置協議会準備会 事務局

(生野区役所 地域まちづくり課)

電話: 06-6715-9920